

①これも今は となつて のことだが、 昔、絵仏師良秀といふ いう 者が あり たそうだ けり。

②家の隣より火 自分の の家 火災 が 発生し 覆い被さる ように吹い 火が 迫つてきた ので 出で来て、風おしおほひて せめ ければ、

良秀は 逃げ出で、大路へ出で 逃げて出し 大通り 出て しまつ た けり。

③人の描か ある 良秀に 描か せた 絵の 家の中に いらつしやつ た する 仏も おはし けり。

④また、衣 着物を ない 着ぬ そのまま 家の 中 い けり た。妻子なども、さながら 内 にあり けり た。

⑤それも 良秀は そんなこと 構わ 逃げて出し た の よい 知らず、ただ逃げ出で た るを ことに して、

大通りの 向こう 側 立つ ている 向かひの つらに 立て り。

⑥見れば、すでにわが 見る と 火は 自分の 燃え 移つ や が くすぶりだし て火がおさまつ ける た 家に移りて、煙・炎くゆり

ころ 良秀は ほとんど 向こう 側 立つ た ところ まで、おほかた、向かひの つらに 立ち て、眺め ければ、

⑦「あさましき 大変な だ 言つ 人々 が 見舞いに来 た けれど 良秀は少しも 慌て ない ず。 こと。」とて、人ども 来とぶらひ

⑧「いかに。」と人言ひ どうしたのか ある が 言つ た ところ 向こう側 立つ て、 向かひに 立ち て、

家の 焼ける の しきりにうなずい 笑つ た 焼くるを見て、うちうなづきて、時々笑ひ けり。

⑨「あはれ、しつる ああ 大変な もうけもの をしたこと よ かな。 せうとく

⑩ 年長年の間ごろは 絵を下手にわろく描描いたきけるものかな。だなあと言言うふときに、

⑪ とぶらお見舞いひに 来来たたる者たちども、「はここれは どういふことかいかに、

良秀は 八四 こうしてかくては 立って立ち おいでなたまへるぞ。のか

⑫ ああきれたさましきこと だなあかな。もの あやしげな霊の が取り憑つききなさなつた か。

と言言つひ たければ、ので

⑬ 「どうしてなんでふ あやしげな霊もの が取り憑つきく はずがあろう か。ぞ。いや、取り憑くはずが無い。

⑭ 年長年来ごろ、不動尊の火炎をあしく 下手に描描いたきけるなり。のだ

⑮ 今見この火を見るれば、火というものはかうこそ 燃えていたけれ あと、心得悟つつるなり。のだ。

⑯ これこそせうとくよ。この道もうけものを立てて （「仏画を描くことの道」専門とし世生計を立てるに からあらむには、

仏だに だけでもよく 上手に描申し上げたきたてまつらば、ならば百千の家も出で来きつとなむ。建てられる だろう

⑰ わたうたちこそ、させる お前さんたち は これといった才能 お持ち合わせにならないもおはせ ね ば、

ものをも なさるのだ惜言つしみたまへ。」と言あざ笑つひて、あざ笑立っひてこそ た立てりたけれ。

⑱ そののち 後に であろう かや、良秀がよぢり不動とて、今に人々 いつ 至るまで がめ誉め合つていたで合へり。